

孤立を防ぐ「地域づくり」実践

秋田県藤里町

2023年1月17日開催号

全世代の活躍支援 (藤里町社会福祉協議会)



楽しくフキの処理作業中



野焼きの合間にお茶のみ



目次

地域共生社会に向けた、活躍支援事業……………	2
「支援される人」＝「活躍できる人」へ……………	4
特産品づくりで活躍……………	7

《講座のご案内》

2023年1月17日(火) 14:00～16:30

「全世代の活躍支援」

ゲスト……………藤里町社会福祉協議会 会長 菊池まゆみ
事務局長代理 門田真

コメンテーター……………一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 代表理事 櫛部武俊

コーディネーター……………全国コミュニティライフサポートセンター 理事長 池田昌弘

ひきこもり者への支援や独自の特産品開発で知られる藤里町では、高齢化率が5割目前となり、「生涯現役のまちづくり」を目標に掲げて、2017年に全世代対象の「プラチナバンク」をスタートさせました。足腰が弱くなっても、誰もが活躍し出番のある地域を目指して、人づくり・仕事づくり・若者支援に取り組んでいます。

お申込み方法は
こちらから →

<https://clc2022jinzai.wixsite.com/sitetop>



地域共生社会に向けた、活躍支援事業

人口減少社会のトップを走る秋田県藤里町。中山間地の小規模自治体であるこの町で、高齢者や障害のある人、ひきこもり者などが、特産品となった「白神まいたけキッシュ」の製造・販売に携わり、人手不足の畑仕事やお祭りの神輿担ぎ、用水路の泥かきなどに従事して活躍しています。

「高齢化がすすむなか、町民が『生涯、地域の役に立ちたい』と言うならば、それを応援するのが私たちの仕事

です」と熱く語るのは、藤里町社会福祉協議会会長の菊池まゆみさん。生涯現役のまちづくりを掲げ、年齢や障害の有無にかかわらず、誰でも人材登録ができる「プラチナバンク」を2017（平成29）年に立ち上げました。現在、町民の1割を超える約400人が登録し、足腰の弱い人も、認知症状のある人も、多様な活動方法で活躍しています。

「支援する対象」ではなく、「活躍する人材」と捉え、言葉で表現できるようになるまでには、35年にわたる町社協の試行錯誤がありました。



白神まいたけキッシュ（税込 1,900 円）

支援が必要な人は、支援する側にもなれる！「藤里方式」

活躍支援の原点は、秋田県下で「一人の不幸も見逃さない」を合言葉に、1980（昭和55）年から取り組まれたネットワーク活動事業です。ご本人の同意を得て、その人の暮らしを支える仲間づくりがすすめ



町民みんなが生涯現役！

られました。当時を振り返り、菊池さんは、「地域の人を支援する側・される側に分類する不都合や、『不幸を見つけ出す運動』に陥る危うさがあった」と話します。老人クラブやボランティア活動への理解も乏しく、『うちのおじいちゃんは毎日、老人クラブで遊んでいる』という認識が一般的で、地域に貢献していることを周知する必要もありました。個々のソーシャルワーカーの力量に左右されるとい課題もあり、組織として取

り組む必要性を感じていたと言います。

事務局長に就任した菊池さんは、2005（平成17）年、地域福祉トータルケア推進事業に着手します。「支援が必要な人は、支援する側にもなれる」という発想のもと、「藤里方式」と名付けて、地域の役に立ちたいという思いに寄り添う支援を、組織として始めます。あわせて、ワンストップの総合相談体制をつくるため、地域包括支援センター、地域活動センター、社協のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）の3者で一体的に取り組み始めました。すべて社協が運営していたこともあり、報告・連絡・相談を密に図ることで、相談支援をスムーズにすすめられるようになりました。

一方で、個別の相談を地域課題と捉えて地域支援や施策につなげる視点や、地域の社会資源を十分に活用できる人材が必要だと考えるようになりました。

また、事業を通じて地域の声を拾うなかで、所属する場所をもたない若者への支援が急務と感じ始めます。



右から、事務局長代理の門田真さん、会長の菊池まゆみさん、就労継続支援B型事業所管理者の菊地孝子さん

【藤里町の概況】

秋田県の北部にある藤里町は、面積が282.13平方キロメートルと広大で、その9割は山林原野です。世界遺産である白神山地の南側に位置し、白神山地を水源とする藤琴川と粕毛川が町内に流れています。誰でも容易にブナ林・亜高山植物・湿性植物の観察ができ、キャンプ場を含めて、多くの観光客に親しまれています。

【2022年4月1日】

人口	2,989人
世帯数	1,329世帯
高齢化率	48.67%

藤里町社会福祉協議会 〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字三ツ谷脇40 総合福祉センター内
TEL 0185-79-2848

キッシュやうどんのご注文はこちらから⇒ <http://fujisato-shakyo.jp/>

事業内容：

- 活躍支援：プラチナバンク、ボランティア活動、まち自慢クラブ、こみっと（研修センター）、藤里グッドデリ
- 発信・推進：藤里町体験プログラム、食を活かした交流、福祉座談会、でらっとプラン
- 安心・安全：地域包括支援センター・地域活動支援センター、ヘルパー・デイサービス・認知症グループホーム・居宅介護支援事業、生活支援ハウスぶなっち

職員体制：49人

法人運営4人、地域福祉活動推進5人、相談支援・権利擁護8人、介護・生活支援サービス32人

「支援される人」＝「活躍できる人」へ



福祉の拠点「こみっと」

そこで、2010（平成22）年4月、福祉拠点「こみっと」で活躍支援事業を始めました。ひきこもり者及び長期不就労者、在宅障がい者などの若者を、地域ぐるみで支え、誰もがキャリアアップやキャリアチェンジを目指せる場です。

「こみっと」には、就労訓練にも使える調理室や食事処のほか、地域住民が使える共同事務所、会議室、サークル室などがあり、活動・交流の場としての機能があります。2006年～2008年の実態調査で把握した、学校にも職場にも所属していない18～55歳未満の町民113人を訪問して登録

を呼びかけ、こまめに情報提供を行いながら、週1回のレクリエーション活動やパソコン操作の訓練、食事処の調理・接客などで活動し始めました。

また、地域の農家や事業者等から依頼を受けて、こみっとの登録生が必要に応じて職員の支援を受けながら仕事を行い、登録生に工賃を支払う「こみっとバンク」に取り組みます。さらに、藤里の新しい特産品として社協が開発した「白神まいたけキッシュ」も登録生が製造を担い、初年度で450万円の売り上げを記録。2015年には、「讃岐生まれの白神育ち・こみっとうどん」を製品化して、食事処で提供し始めます。

このような活動が、地域づくり・地域福祉の先駆的事例として全国から注目を浴びるようになりました。

誰もが活躍できる風土づくり

こみっとの活動の背景には、「結婚できるくらいの収入がほしい」「人にバカにされない職業に就きたい」という至極まっとうな感情を受け止め、それを実現するお手伝いをするべきだ、という社協の覚悟がありました。「福祉業界の人間は、最低限の暮らしまで引き上げればよいと考えがち。しかし、本人たちは、『福祉のほどこしはらない』と言い、もっと上を目指していることに気づきました」と菊池さんは話します。狭義の「福祉」を越えた藤里町社協の試みは、誰もが活躍できる風土を開拓していきます。

こみっとには、登録生だけでなく、共同事務所や食事処を利用する地域の人も出入りします。誰が職員なのか利用者なのかわからないまま、顔見知りになります。当初「地域の人が怖い」と言っていた登録生が、「あのお婆さんは、おせっかいだけどいい人ですよ」と話すような関係性が育まれます。調理を手伝うシルバーバンクの人も、同じ調理場を使う仲間として登録生と出会い、協力し合う関係を築いています。

そして、「白神まいたけキッシュ」の初年度450万円の売り上げが、町民の意識や偏見を変えていきました。それまでは、「こみっとにお誘いしたい人はいますか？」と地域の人に声をかけると、「家族が隠そ



こみっと内の共同事務所

うとしているのに、暴くような真似をしたくない」「そっとしておきなさい」という意見が多くありました。それが、キッシュの売り上げを境に、彼らは活躍をする場がなかっただけで、本来活躍できる人なんだという考えが実感をもって広がり、「学校にも職場にも所属していないなら、こみっとに行って手伝って来なさいよ」と気軽に声をかける風潮に転換したのです。

こみっとの登録生は次々と卒業し、就職していきます。素晴らしいことですが、こみっとバンクの人手が足りなくなって、受けられない依頼もでてきました。

プラチナバンクで「地域の役に立ちたい」

そして、冒頭に紹介した「プラチナバンク」の立ち上げにつながります。藤里町では2015年度から「生涯現役のまちづくり」を掲げ、人づくり・仕事づくり・若者支援を3本柱に、弱者と呼ばれる人たちが担い手になる地方創生に取り組んでいます。プラチナバンクは人づくり事業に位置付けられます。

実施にあたっては、各地区の老人クラブなどへ説明に回り、「足腰が弱くなったという人には、手で参加できる仕事を、さらに口でできる仕事を社協が探してきます」と口説いたそうです。

プラチナバンクは、収入、仕事時間、やる気、経験などの項目をもとに登録区分があり、無償、有償、ポイント制とさまざまな活動形態があります。社協の就労的活動支援コーディネーター3人と、有志の住民リーダー（民生児童委員や社協理事など）10人を中心に運営されています。

実際に、100歳近い人が「私でも役立つことがあるの」と喜んで登録。住民同士で得意分野の講師役となり交流する「まち自慢クラブ」で、口での参加として、ダム湖に沈んだ出身集落について講話しました。当日は、社協の送迎付きで、風呂敷3つ分の資料を持参。体調を崩して入院した際には、「また私に仕事を頼んでくれる？」と退院へのモチベーションにするほど、生きがいとなっています。

プラチナバンク事業の展開

年度	登録会員数 (人)	活動件数 (件)	活動延人数 (人)	活動収入金額 (円)
2015	(121)	(307)	(3,872)	(11,235,690)
2016	301	346	3,773	11,159,621
2017	342	442	7,024	24,529,621
2018	362	411	6,107	26,267,362
2019	385	520	7,006	41,650,187
2020	390	543	10,507	38,700,870



こみっとうどん 季節のセット (税込 500 円)



おいしそうな山菜料理

現在、プラチナバンクで活躍している人は100人ほど。就労的活動支援コーディネーターは、就職をする支援ではなく、住民の「地域のお役に立ちたい」という思いを受け止めて、応える役割があると考えていますが、登録者数に対して仕事づくりやマッチングが追いついておらず、試行錯誤が続いています。

プラチナバンク働き方登録票

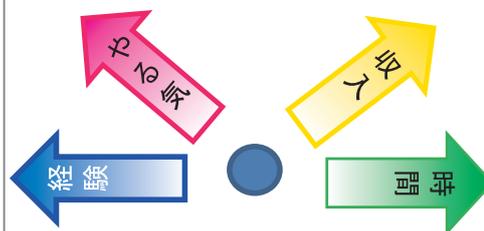
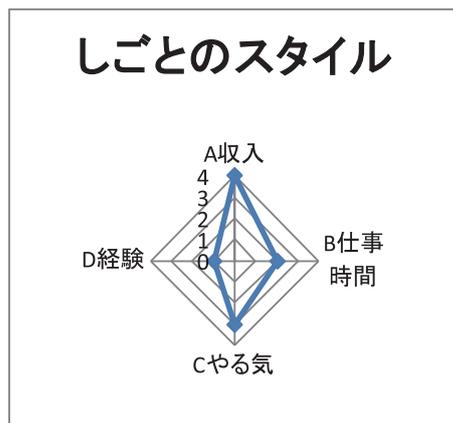
分野	番号	働くかたち		働き方
A 収入	4	8万以上	仕事優先 なんでもやります型	定額の収入を得たい。
	3	3~8万	自分の希望優先 職人型	仕事を選んで、少額でも収入を得たい。
	2	分からない	余暇優先型	金額にはこだわらない。できる時に仕事をしたい
	1	ポイント	支援付	ポイントで受取る。
B 仕事時間	4	6時間以上	仕事優先 なんでもやります型	受けた仕事の時間働きます。
	3	3時間未満	自分の希望優先 職人型	選んだ仕事の時間働きます。
	2	1時間	余暇優先型	短時間なら働きます。
	1	不定	支援付	支援付で仕事します
C やる気	4	なんでもひとりで できます	仕事優先 なんでもやります型	いろいろな仕事に全力でチャレンジします
	3	得意分野はひとりで できます	自分の希望優先 職人型	登録した職種なら、なんでもやります
	2	誰かと一緒ならで きます	余暇優先型	誰かと一緒に仕事をします
	1	支援があればでき ます	支援付	支援をうけながら仕事をします
D 経験	4	仕事の経験があり ます	仕事優先 なんでもやります型	仕事の経験を土台になんでも仕事をします
	3	得意な仕事があり ます	自分の希望優先 職人型	仕事の経験を活かして仕事ができます
	2	仕事はしたことが あります	余暇優先型	仕事はしたことがあります
	1	仕事の経験があり ません	支援付	仕事の経験はありません

※団体登録とは：老人クラブ、婦人会、PTA、スポーツ少年団、むじん、デイサービス等で登録し、作業しポイントを取得します。

※仕事にポイントがついています。ポイントは〇〇券と引き換えできます。例。入浴券、こみっとお食事券等

自分のスタイル

A収入	4
B仕事時間	2
Cやる気	3
D経験	1
合計	10



特産品づくりで活躍



山の作業はお手のもの

リエーション活動には目もくれず作業に没頭し、きちんと後始末をしてデイサービスを帰られたそうです。「何もできない人はいない」ということを、日々、職員のほうが気づかされています、と菊池さんは話します。

根っこビジネスや山菜の製品化の拠点は、まち自慢クラブと同じ建物にあり、まち自慢クラブに参加したついでに、加工作業も手伝えるような工夫をしています。衰退する地区老人クラブを応援するため、活動の一環としてまち自慢クラブに参加したり、加工の仕事をする仕組みもつくりました。

事務局長代理の門田真さんは、「一緒に山に入り、山菜採りやワラビ掘りをすると、住民の皆さんの知識と経験に圧倒されます。自分の福祉資格は役に立たず、指導を受ける側です。みんな弱い部分を補えば活躍できる人なのだ、と腑に落ちて、いまでは菊池会長だけでなく、住民リーダー10人が僕の上司です」と目を輝かせます。山の作業の合間にするお茶飲みは、みんなのお楽しみ。「何も言わなくても、勝手に豪華になっていきます」（門田さん）。

弱者ではなく、活躍する人材という考え方のベースには、「生活する力への絶対的な信頼感」を大事にする社協の思いがあります。

生活に根差した取り組み

社協では、町外の若者が藤里町の暮らしを体験するプログラムを用意しています。町内の高齢者からフキの皮むきを教わり、一緒に山に入って山菜や根っこ掘りを体験します。山の斜面を自在に動く高齢者に、若者はついていくのが精一杯になりながらも、「つくら

社協では、プラチナバンクとともに、町民の活躍の場づくりとして、特産品づくりにも取り組んでいます。「根っこビジネス」はその一つ。徳島県上勝町の「葉っぱビジネス」に着想を得て、葛やワラビの根っこを掘り出し、原料粉やわらび餅などを生産しています。また、地元の山菜を活用した伝統の味シリーズ「藤里グットデリ」を商品化しました。

社協のデイサービスを利用していた高齢者のみなさんに、山で採ったフキを持ち込んで皮むきをお願いしたら、レク



力を合わせて作業中



気持ちは乙女



山道も慣れた足取りで

実現できないことのほうが多いです。そのたびに、あなたの声は町に届けるからねと伝えてきました。あきらめないことが大事」（菊池さん）。事業を個別にこなすのではなく、「生活に根差した取り組み」として面で展開する姿勢が、藤里町の地域共生社会づくりの根底にあります。

れた田舎体験」ではないリアルを肌で感じます。「輪になって山菜の皮むきをするのが楽しかった」「高齢者が格好良かった」という若者たちの感想が、生涯現役・活躍の醍醐味を伝えます。

コロナ下での大きな影響は、開発した商品の売上げが落ちたこと。それまでは、年間 50～60 組の視察を受け入れ、お土産に商品を買ってくださっていたものが途絶えました。「完売で在庫がありません！」という現場のうれしい悲鳴を聞けなくなり、地道に営業をされています。

また、住民の山での活動はできるだけ止めないように支援し、「合間のお茶飲みを短時間にするなど縮小しました」と門田さんは話します。

事業を通じて地域の声を拾い、次なる必要な手立てを考え、時間がかかっても形にしてきた藤里町社協。「相談を受けても、すぐに



みんなでフキの皮むき作業

孤立を防ぐ「地域づくり」実践 藤里町社会福祉協議会 2023年1月17日開催号

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業「社会的孤立の解消に向けた地域づくり人材養成事業」

発行元：特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）

〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1階

TEL 022-727-8731 FAX 022-727-8737

<https://clc2022jinzai.wixsite.com/sitetop>